

2012年3月期第1四半期連結決算報告(2011年4月1日~6月30日)

- **東日本大震災の影響は予想を下回る**
- **建築用ガラス事業の業績は、付加価値製品の数量増を反映**
- **自動車用ガラス事業は、震災後のカーメーカー需要低下により減益**
- **機能性ガラス事業関連市場は震災影響を受けたが、業績堅調**
- **持分法適用会社の業績は、前年実績並み**
- **今期業績見通しを維持**

東日本大震災後の影響は予想を下回る

- 営業利益影響は、34億円(27億円:自動車用ガラス事業、7億円:機能性ガラス事業)。およそ10億円予想を下回る
- 震災影響を除くと、業績は予想通り
- 前年実績の修正表示含めて、全て業績は国際会計基準(IFRS)で記載
- グループ売上は1,452億円(前年同期1,481億円)。前年比2%減収だが、為替変動を除くと1%増収
- 償却後営業利益は36億円(前年同期64億円)。東日本大震災による影響を反映

建築用ガラス事業の業績は、付加価値製品の数量増を反映

- 太陽光発電分野は、予想通りの成長
- ほとんどの地域で価格上昇が投入コストアップを相殺
- 建築用ガラス事業の売上は637億円(前年同期606億円)、営業利益は42億円(前年同期27億円)

自動車用ガラス事業は、震災後のカーメーカー需要低下により減益

- 震災後、自動車組立需要は4月に大きく減少したが、その後当四半期を通じて堅調に改善
- 補修用ガラス(AGR)事業は、価格改善により順調
- 自動車用ガラス事業の売上は662億円(前年同期713億円)、営業利益は20億円(前年同期45億円)

機能性ガラス事業関連市場は震災影響を受けたが、業績堅調

- 携帯機器向け液晶ディスプレイ分野は堅調な成長
- プリンター/スキャナー市場は、予想通り、東日本大震災による影響を受けた
- タイミングベルト用ゴムコード売上は欧州の堅調な自動車生産に支えられた
- 機能性ガラス事業の売上は149億円(前年同期158億円)、営業利益は16億円(前年同期15億円)

持分法適用会社の業績は、前年実績並み

- 持分法投資利益は20億円(前年同期22億円)
- ブラジルの建築用ガラス合弁会社(50%出資)であるセブラセの業績は横ばい
- ロシアの合弁会社の収益性は改善
- 中国の持分法適用会社は減益

今期業績見通しを維持

- 震災による通期営業利益影響を60億円から48億円に修正
- 現在の北米や欧州の経済成長の不透明性を考慮すると、通期業績予想は妥当と考える



連結損益計算書

(億円)	12年3月期 4月-6月期	11年3月期 4月-6月期	前年比
売上高	1,452	1,481	-2%**
無形資産償却前営業利益	56	84	
償却費*	(20)	(20)	
営業利益	36	64	
金融費用(純額)	(37)	(43)	
持分法による投資利益	20	22	
税引前四半期利益	19	43	
四半期利益	19	31	
親会社の所有者に帰属する四半期利益	16	27	
EBITDA	138	171	-19%

*ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却のみを考慮

** 為替変動を除くと+1%

東日本大震災の影響は予想を下回る